

第3節 市民センターにおける図書・資料等の整備について、 ——「ひまわり文庫」や本のコーナーの利用状況から考える——

山 田 留 里

1. はじめに

「公立図書館の設置及び運営上望ましい基準」（平成13年7月18日施行）によれば、「市町村立図書館は、住民のために資料や情報の提供等直接的な援助を行う機関として、住民の需要を把握するよう努めるとともに、それに応じ地域の実情に即した運営に努めるもの」である。北九州市の公立図書館は、2007年度より開館予定の門司分館や、その他関連施設の分室も含めて20館あるが、全体的に老朽化・バリアフリー化の立ち後れは否めない。市立図書館全体の利用率は他の政令市との比較の中で、必ずしも高いとはいえず、八幡西区や小倉南区など、居住区域の広がりによって図書館の設置が追いつかないでいる地域もある。住民の需要に応じた設置及び運営がなされているとはいいがたいのが現状だ。たとえば福岡県北東部地方拠点都市地域での図書館の広域利用において、水巻町図書館をはじめとした近隣の図書館を利用する北九州市民の数が、設置自治体の住民に比べて突出していることなどは、つとに指摘されてきた。（※1）

一方、社会教育施設として明確な位置付けをもっていた公民館が、2004年1月から、すべて市民センター化されたことで、地域における「図書、記録、模型、資料等を備え、その利用を図る」（※2）機能の所在があいまいになっている。地域の問題を解決したり、地域の活動に主体的に参加したりするうえで、実情に即した郷土資料を保存・収集し、必要に応じて利用に供することは、地域への関心や愛着を高める重要な意味をもつと考えられる。しかしながら、現状では、どこが、どのようにしてその役割を担っていくのかわかりにくい。

こうした状況のなかで、北九州市立図書館の貸出文庫「ひまわり貸出文庫」（以下「ひまわり文庫」）が、「原則として、1小学校区単位に1文庫」「市民センターなどの公共施設内」（※3「北九州市立図書館貸出文庫業務規定」）に、市内全部で133ヶ所（2007年3月現在）設置されていることは注目に値する。全128館の市民センターうち120館には、この貸出文庫がある。

「ひまわり文庫」の設置は、1993年自動車文庫の廃止を機に始まり、市民センター（市民福祉センター）の設置に伴って増えてきた。ただ、設置開始から10年以上を経て、当初計られていた文庫ボランティアの養成はすすんでおらず、選書や図書の入替などへの文庫ボランティアのかかわりも薄れ、文庫の実質的な運営は、もっぱら当該施設職員に任されている。市民センター活動における文庫の役割や目的、市民センター業務のなかでの文庫運営の位置づけは明確化されておらず、運営の指針は前掲の「北九州市立図書館貸出文庫業務規定」及び「ひまわり貸出文庫事務手順」（※4）によるのみである。

一部の市民センターには、公民館時代から所蔵していた郷土関連の図書資料や地域住民からの寄贈本などによる文庫を設けていたり、ボランティアが独自の文庫を運営していたりするところがある。また、ほとんどの市民センターにはインターネット接続の端末が置かれており、図書館との連絡や蔵書検索ができる環境は整っている。文庫の蔵書が充実し、図書の貸出やり

クエストについての認知度が高まれば、ふだん市民センターを利用しない住民が、足を運ぶきっかけ作りにもなる。

市民センターという住民に身近で開かれた施設に、図書館本来の役割を補い、地域の実情にあった資料情報提供施設としての発展の可能性を探ってみることは、新しい地域づくりのヒントになるのではないだろうか。今回のアンケート調査では、「ひまわり文庫」の利用の現状、利用者数や利用者の年齢層、認知度、蔵書、図書館への要望などを通して明らかにすることを目的とした。さらに、『2003年度北九州市立大学北九州産業研究所社会福祉プロジェクト「地域づくり」に関する』の報告書に含まれる「ひまわり文庫」利用度アンケート調査結果との比較によって、利用状況の変化についても考察を加えている。利用の現状と変化を踏まえ、「地域活動の拠点施設」である市民センターにおける貸出文庫の充実と、地域関連資料の収集保存（について）の今後のあり方について、意見を述べてみたい。それはとりもなおさず住民の読書活動を支え、「地域の自主的・主体的な地域づくり・まちづくり活動を育」むことにつながっていくはずである。

※ 1. 『北九州市の図書館』（年報）平成18（2006）年「福岡県北東部地方拠点都市地域16市町利用統計（平成17年度）」によれば、水巻町図書館を利用する北九州市民の利用者数4,190人は、広域利用全体の87%を占める。北九州市立図書館を利用する北九州市以外の利用者数5,037人は、広域利用全体の4%弱に過ぎない。北九州市の図書館利用者の1割以上は、北九州市外の図書館を利用している。

※ 2. 「社会教育法」第五章 公民館（公民館の事業）第二十二條三

※ 3. 「北九州市立図書館貸出文庫業務規定」によれば、「ひまわり貸出文庫」は図書館の利用が「困難な利用者のために」「読書を奨励する」ことで「生涯学習の推進に資することを目的」に「原則として、1小学校区単位に1文庫を設け」ている。運営については「図書の選定及び配本は、ひまわり文庫を所管する図書館職員が行い、図書の貸出し及び返却事務は施設の職員又は地域ボランティア等の協力により行うものと」されている。

※ 4. 「ひまわり貸出文庫事務手順」では「新設」「一時休止」「開館日及び開館時間」「図書の配本及び入替」「図書のリクエスト」「図書の貸出し」「図書の返却」「督促」「統計」「施行期日」を示している。

※ 5. 参照：『市民生活を豊かに変えるIT 第8期北九州ミズ21委員会報告書』2003年12月発行「公民館・市民福祉センターにおける『ひまわり文庫』利用度アンケート調査自由筆記の回答」

2. 「ひまわり文庫」と本のコーナーの利用状況について

(1) 利用者数

1日平均の利用者数は「0～5人」が70.5%で、前回2003年の調査結果（86.2%）に比べて減少し、「6～10人」「11～20人」がそれぞれ19.2%と1.3%で、前回（6.5%と2.4%）より増加している。「21人以上」の利用はゼロで、これは前回の傾向と変わらない。アンケート調査の結果は、1日の利用者数がやや増加傾向にあることを示している。

中央図書館が集計している「ひまわり文庫」全体の利用状況統計では2001年度から2005年度にかけて貸出者数、貸出冊数ともに減少傾向にあり、アンケート結果とのズレがある。

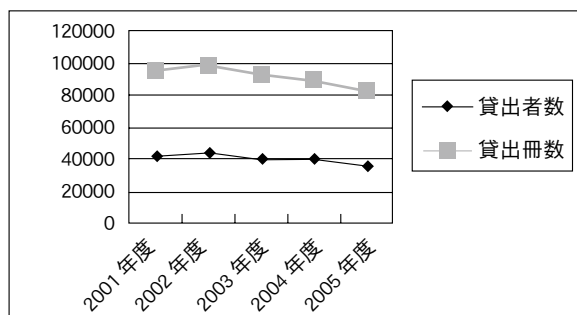
なお、回答者の性や前職の違いによる割合に大きな差は見られない。不明・その他・無回答の数が、前回調査に比べ、増えている。

問 4 (1)ひまわり文庫の利用状況 (多重回答)

	2006年度調査		2003年度調査	
	度数	パーセント	度数	パーセント
0～5人	55	70.5	106	86.2
6～10人	15	19.2	8	6.5
11～20人	1	1.3	3	2.4
21人以上	0	0	1	0.8
不明	1	1.3	4	3.3
その他	3	3.8	0	0
無回答	4	5.1	1	0.8
合計	78	100	123	100

『北九州市の図書館 (年報)』より 事業報告 (イ) 貸出文庫

	貸出者数	貸出冊数	文庫数
2001年度	42573	95881	123
2002年度	42777	96576	129
2003年度	40500	93021	131
2004年度	39238	88587	133
2005年度	35910	82466	132



(2) 利用者の年齢層

利用者の年齢層は前回調査同様、「高齢層(おおむね60歳以上)」が一番多く、次に多いのが「中年層(36～60歳位)」で、高齢層の利用が8割近くを占める。この割合は、前回の45.5%対27.6%から70.5%対7.7%へと変化しており、高齢化の傾向が読み取れる。「高校生以上学生層」の利用については、今回もゼロという回答が出ている。「乳幼児」「小・中学生」「青年層」では減少傾向が見られる。

回答者の性や前職の違いによる利用者の年齢層の受け止め方には、差がある。高齢者の利用者層を多く捉える傾向は女性に見られ、前職によっても違いが出ている。低年齢層の利用者の捉えかたにも性や前職による違いがある。この違いから、回答者と利用者とのかかわり方が、性別や前職で異なっているのではないかという仮説は立てられるが、今回の調査結果だけで、結論を出すのは難しい。

問 4 (2)最も多い利用者の年齢層 (多重回答)

(2003年度調査)

	度数	パーセント	度数	パーセント
乳幼児	1	1.3	3	2.4
小・中学生	14	17.9	27	22
高校生以上学生層	0	0	0	0
青年層 (18～35歳位)	1	1.3	2	1.6
中年層 (36～60歳位)	6	7.7	34	27.6
高齢層 (おおむね60歳以上)	55	70.5	56	45.5
無回答	6	7.7	1	0.8
合計	78	100	123	100

問 4 (2)最も多い利用者の年齢層 (多重回答)

		乳幼児	小・中学生	高校生以上 学生層	青年層 (18～35歳位)	中年層 (36～60歳位)	高齢層 (おおむね60 歳以上)	無回答
		%	%	%	%	%	%	%
性別	男性	2.4	21.4	0.0	2.4	7.1	64.3	7.1
	女性	0.0	16.7	0.0	0.0	10.0	76.7	6.7
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	16.7
前職	役所関係	0.0	28.6	0.0	0.0	3.6	60.7	10.7
	学校長等	0.0	16.7	0.0	5.6	0.0	83.3	0.0
	民間企業等	8.3	16.7	0.0	0.0	16.7	75.0	0.0
	その他	0.0	5.6	0.0	0.0	16.7	66.7	16.7
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	合計	1.3	17.9	0.0	1.3	7.7	70.5	7.7

(3) 「ひまわり文庫」や本のコーナーに対する住民の周知度について

前回の調査との比較で、もっとも大きな差が見られたのが、この周知度についてである。市民センターの中に図書の貸出ができる文庫や本のコーナーがあることを、地域住民に認識されているという回答の割合が、前回より大幅に減少している。「よく知られている」「よく知られているが関心をもたれていない」が合わせて、前回93.5%であったのに対して、今回は46.1%で約半分に減っている。逆に「あまり知られていない」は3.2%から35.9%と10倍以上に増えている。

この傾向は女性より男性に、前職では民間企業より、役所関係・学校長に顕著である。市民センターに勤務する以前に、文庫を利用するなど、存在を知る機会があったかどうかで、認知度の対する捉えかたに違いが生ずることも予想できるが、これもあくまで仮説の域を出ない。

問 4 (3)「ひまわり文庫」の周辺住民の周知度 (2003年度調査)

	度数	パーセント	度数	パーセント
よく知られている	15	19.2	106	86.2
知られているが、関心をもたれていない	21	26.9	9	7.3
あまり知られていない	28	35.9	2	1.6
わからない	6	7.7	2	1.6
ひまわり文庫がない	1	1.3	3	2.4
無回答	7	9.0	1	0.8
合計	78	100.0	123	100.0

問 4 (3) 「ひまわり文庫」の周辺住民の周知度

問4(3)		よく知られている	知られているが、関心 がもたれていない	あまり知られていない	わからない	ひまわり文庫がない	無回答
		%	%	%	%	%	%
性別	男性	16.7	28.6	38.1	7.1	2.4	7.1
	女性	23.3	23.3	33.3	10.0	0.0	10.0
	無回答	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0	16.7
前職	役所関係	17.9	25.0	42.9	3.6	0.0	10.7
	学校長等	27.8	33.3	38.9	0.0	0.0	0.0
	民間企業等	33.3	16.7	16.7	25.0	8.3	0.0
	その他	5.6	27.8	33.3	11.1	0.0	22.2
	無回答	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	合計	19.2	26.9	35.9	7.7	1.3	9.0

(4) 「ひまわり文庫」利用者からの要望について

要望の有無についても、前回の調査との比較で差が見られた。「貸出冊数」「貸出期間」「配本」「予約・リクエスト」「本の検索・図書情報」「その他」について要望が上がっている割合は、前回に比べて減少している。要望があがっていないのは55.1%、前は37.4%である。「ひまわり文庫」に対する周知度が低下していることと無関係ではないだろう。

この傾向は女性より男性に、前職では民間企業より、役所関係・学校長に顕著である。ただ、ここでも利用者が要望していないのか、要望があるのに伝えていないのかまではつかめない。回答者が利用者の要望を十分に受け止めることができているのか、文庫の存在や利用についての広報が十分になされているのかといった疑問が残る。

問 4 (4)利用者からの要望（多重回答）

(2003年度調査)

	度数	パーセント
貸出冊数・貸出期間	2	2.6
配本の冊数・種類	7	9.0
予約・リクエスト	10	12.8
ほんの検索や新刊書など図書情報	8	10.3
要望はない	43	55.1
その他	3	3.8
無回答	7	9.0
合計	78	100.0

	度数	パーセント
	6	4.9
	55	44.7
	42	34.1
	8	27.6
	46	37.4
	2	1.6
	1	0.8
	123	100.0

問 4 (4)利用者からの要望 (多重回答)

		貸出冊数・ 貸出期間	配本の冊 数・種類	予約・リク エスト	ほんの検索 や新刊書な ど図書情報	要望はない	その他	無回答
		%	%	%	%	%	%	%
性別	男性	4.8	7.1	9.5	11.9	61.9	2.4	7.1
	女性	0.0	10.0	16.7	10.0	50.0	6.7	6.7
	無回答	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3	0.0	33.3
前職	役所関係	0.0	0.0	7.1	10.7	67.9	3.6	10.7
	学校長等	5.6	27.8	11.1	11.1	50.0	0.0	0.0
	民間企業等	8.3	16.7	25.0	8.3	33.3	8.3	8.3
	その他	0.0	0.0	16.7	11.1	50.0	5.6	16.7
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	合計	2.6	9.0	12.8	10.3	55.1	3.8	9.0

(5) 「ひまわり文庫」以外の市民センターの蔵書について

1000冊以上の蔵書を持つセンターが9%ある一方で、独自の蔵書を持たないセンターも依然として15.4%あるが、前回よりわずかに減っている。

蔵書のなかでとくに、郷土や地域に関する資料や本の収集及び寄贈について、今回、新たに質問を項目設けた。こういったものを「郷土や地域に関する」とするかについては、あえて定義しなかった。半数のセンターは所蔵しているが、所蔵も収集もしていないセンターも半数近くある。寄贈についても、受入れているセンターと受入れていない、もしくは寄贈がないセンターが、半々で、今後、郷土や地域に関する資料や本を地域で保存したり利用したりするためのしくみは、十分に整っているとは言えない現状がうかがえる。

問 5 (1) 「ひまわり文庫」以外の蔵書

	2006年度	
	度数	パーセント
1001冊以上	7	9.0
1000冊～501冊	6	7.7
500冊～101冊	22	28.2
100冊以下	27	34.6
不明	1	1.3
ひまわり文庫以外には本のコーナーはない	12	15.4
無回答	3	3.8
合計	78	100.0

2003年度調査	
度数	パーセント
10	8.1
14	11.4
45	36.6
25	20.3
2	1.6
26	21.1
1	0.8
123	100.0

問 5 (2)郷土や地域に関する資料・本の蔵書・収集

問5(2)	度数	パーセント
所蔵・収集している	8	10.3
所蔵しているが収集はしていない	32	41.0
所蔵・収集していない	35	44.9
無回答	3	3.8
合計	78	100.0

問 5 (3)郷土や地域に関する図書や資料の寄贈

問5(3)	度数	パーセント
図書・資料などの寄贈がある。寄贈は全て、一部受入れている	35	44.9
図書・資料などの寄贈はあるが受入れていない	7	9.0
図書・資料などの寄贈はない	32	41.0
わからない	1	1.3
無回答	3	3.8
合計	78	100.0

回答者の性別で割合を見ていくと、「図書・資料などの寄贈がある」「図書・資料などの寄贈があるが受入れていない」が女性で70%だったのに対し、男性の場合は42.8%で、「図書・資料などの寄贈はない」は女性が26.7%で、男性は52.4%だった。ここでも、問 4 (3)(4)でみられたような性別による差が明らかである。

問 6 (1)「ひまわり文庫」所轄の図書館に期待すること (多重回答)

問6(1)	度数	パーセント
配本数・配本頻度の増加	22	28.2
新刊書の充実	48	61.5
予約やリクエストへの対応	25	32.1
新書の検索や図書館情報の伝達	11	14.1
貸出業務の改善	9	11.5
その他	2	2.6
無回答	8	10.3
合計	78	100.0

問 6 (2)市民センターで利用・所蔵したい図書・資料 (多重回答)

問6(2)	度数	パーセント
新刊書	38	48.7
郷土関連の図書資料	44	56.4
児童書・実用書	32	41.0
大活字本・点字本	9	11.5
大型絵本・めくり絵など	45	57.7
利用・所蔵したい図書・資料はない	3	3.8
その他	2	2.6
無回答	2	2.6
合計	78	100.0

(6) 図書館への期待と、市民センターでの利用・所蔵の希望について

「ひまわり文庫」で、所轄の図書館に最も期待しているのは「新刊書」の充実であり、61.6%と高い割合になっている。「予約やリクエストへの対応」、「配本数・配本頻度の増加」と続いていることから、新しい本、読みたくなるような本をそろえて、利用者の需要に応えたいという姿勢がうかがえる。前回の調査においても、「利用者が増えて欲しくない」と回答したのは皆無であった。

市民センターで利用・所蔵したい図書・資料については、「ひまわり文庫」の有無を確認する項目がなかったために、すでに所蔵しているので必要を感じないのか、所蔵そのものを望んでいないのか判断できないが、「利用・所蔵したい図書・資料はない」と回答したのは、3.8%に過ぎない。

問 5 (2)で「所蔵しているが収集はしていない」「所蔵・収集していない」と回答したのが85.9%あったにもかかわらず、「郷土関連の図書・資料」を利用・所蔵したいと回答した割

合は56.4%だった。「新刊書」や「児童書・実用書」よりも割合が高い。

最も要望が高かったのは「大型絵本・めくり絵など」で57.7%。これは市民センターで行っている事業との関連や地域ボランティアからの要望などが反映されているからではないのか。大型絵本・めくり絵などは独自に購入するにはかなり高価で、管理も難しい。現状では、図書館からこうした特殊な本を市民センターに貸出すしくみは、できていない。図書館と市民センターとの関わりを考えたとき、今後の課題として、検討の必要を感じる。

問 5 (3)郷土や地域に関する図書や資料の寄贈

		図書・資料などの寄贈がある。寄贈は全て、一部受入れている	図書・資料などの寄贈はあるが受入れていない	図書・資料などの寄贈はない	わからない	無回答
		%	%	%	%	%
性別	男性	33.3	9.5	52.4	2.4	2.4
	女性	60.0	10.0	26.7	0.0	3.3
	無回答	50.0	0.0	33.3	0.0	16.7
前職	役所関係	39.3	10.7	42.9	3.6	3.6
	学校長等	50.0	5.6	44.4	0.0	0.0
	民間企業等	33.3	8.3	58.3	0.0	0.0
	その他	55.6	11.1	22.2	0.0	11.1
	無回答	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	合計	44.9	9.0	41.0	1.3	3.8

問 6 (1)「ひまわり文庫」所轄の図書館に期待すること (多重回答)

問6(1)	度数	パーセント
配本数・配本頻度の増加	22	28.2
新刊書の充実	48	61.5
予約やリクエストへの対応	25	32.1
新書の検索や図書館情報の伝達	11	14.1
貸出業務の改善	9	11.5
その他	2	2.6
無回答	8	10.3
合計	78	100

問 6 (2)市民センターで利用・所蔵したい図書・資料 (多重回答)

問6(2)	度数	パーセント
新刊書	38	48.7
郷土関連の図書資料	44	56.4
児童書・実用書	32	41
大活字本・点字本	9	11.5
大型絵本・めくり絵など	45	57.7
利用・所蔵したい図書・資料はない	3	3.8
その他	2	2.6
無回答	2	2.6
合計	78	100

3. まとめ

市民センターの貸出文庫は、運用次第で住民の需要に叶う読書環境の整備につながっていく。高齢化社会にふさわしい、身近な情報拠点となりうる。市民センターの社会教育的な役割を明確にし、文庫を含めた図書資料の整備を図るべきだ。

中央図書館の統計では、「ひまわり文庫」は利用者数・貸出冊数ともに減少傾向にあるが、北九州市立図書館本館の個人貸出も2003年をピークに、北九州市の人口の減少率を上回る割合で減少している。個人貸出に比べると、むしろ、文庫利用数の減少傾向は緩やかだ。地域社会の高齢化に従って、利用者数や利用者層が変化していることがわかる。図書館の空白を補う施設として、地域における読書環境を支えていると考えられる。

しかしながら利用者層は、前回に比べて広がっていない。逆に、周知度が著しく低下し、利用者からの要望もあがりにくくなっている。独自の蔵書を持たない市民センターも15%以上ある。「郷土資料」の利用・所蔵に対する希望があっても、現状では、蔵書管理や収集・受入に負担が伴い、簡単ではない。

市民センターの文庫や所蔵資料について、広報に力を入れていく必要があるのではないか。所轄の図書館は、地域の実情を掴み、市民センターと協力して、住民の需要にあった文庫運営を図るべきだ。そのためには、担当職員が市民センターとの情報交換を密に行い、図書館からの情報提供も積極的に進めていくことが求められる。図書資料の管理を市民センターの業務の一環として位置づけ、相応の人員を配置して、安定した運用ができるしくみを整えていくべきだ。